

今日のキーワード 「AI」のインパクト① (グローバル)

「AI」は英語のArtificial Intelligence (人工知能) の略で、1950年代から世界的に研究が進められています。現在、「AI」は“ディープラーニング”と呼ばれるコンピューターに学習能力を獲得させる手法・技術によって飛躍的に進歩を遂げつつあります。コンピューターの処理能力の向上、“ビッグデータ”技術の進展とあいまって、「AI」によって我々の生活はどう変わっていくのでしょうか？2回に分けて、「AI」のインパクトを説明していきます。

ポイント1

既に「AI」は幅広い分野で活躍中

普通の人から、熟練工・専門家レベルに躍進

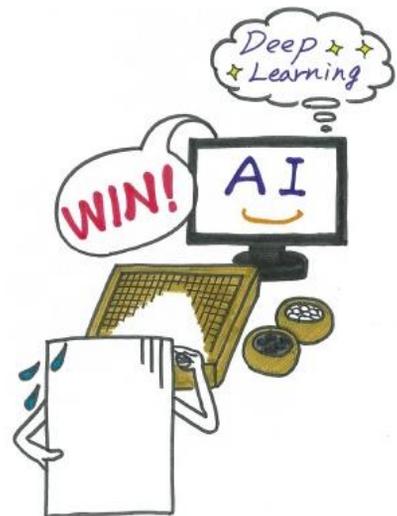
- 「AI」を活用したサービスはすでに幅広い分野で実用化されています。携帯電話やスマホでの音声認識、機械的な言語の翻訳機能、自動車の自動運転、音楽の作曲支援などです。これらの「AI」のサービスは、いわば普通の人ならできるレベルのものです。
- 最近、「AI」はさらに進歩し、人間でいえば高い技能レベルを持つ熟練工・専門家レベルの機能を有するようになってきています。鉄鋼業では高炉の監視・操業、医療ではX線写真の画像診断支援、インターネット・ショッピングでは商品の自動推奨機能、サイバー攻撃検知システムなどが実用例としてあげられます。

ポイント2

「AI」は新たなステージに突入

ディープラーニングで「AI」自体が進歩

- 「AI」の進化の背景は、「AI」自体が、人工知能アルゴリズム“ディープラーニング (深層学習)”により、進歩していることがあげられます。
- わかりやすく言うと、これまでの「AI」は、人間が情報や条件設定などを入力する必要がありましたが、最新の「AI」は、情報を処理する過程で、人間でいう知識を自ら習得する機能を持つことができるようになってきたのです。この結果、画像認識の誤差率では人間を超える精度が出るようになったり、難しいとされていた囲碁では、プロ棋士に勝てるまでに進歩してきました。



今後の展開

“ビッグデータ”と“クラウド”などインフラ整備で「AI」はさらに進歩

- 近年、膨大なデータ=“ビッグデータ”を効率的に分析するソフトウェアが登場しました。また、コンピューターシステムでは、“クラウド”というインターネット上でコンピューターを使用することが可能となりました。プロ棋士と「AI」の囲碁の対決では、「AI」は1,000台以上のコンピューターをインターネット上で束ねて使用したとされています。このような言わばインフラの整備を背景として、「AI」は格段に進歩するとともに、その利用が容易になり、「AI」を利用した様々な製品や技術が本格的な普及期を迎えようとしています。

ここもチェック!

2016年 7月 14日 「AI」で第4次産業革命 (日本)

2016年 7月 13日 米国の株式市場 (2016年7月) ニューヨーク (NY) 株式市場が史上最高値を更新

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。